

氏名	宇都宮 泰子
学位の種類	修士（鍼灸学）
学位記番号	鍼修第487号
学位授与の日付	令和6年3月12日
学位授与の要件	大学院規則第30条および学位規程第4条該当
学位論文題目	不妊治療における補完代替医療（CAM）の利用実態に関するアンケート調査
指導教員	伊藤 和憲

学位論文の要旨

【目的】

不妊治療経験者を対象に、不妊治療における補完代替医療（complementary and alternative medicine: CAM）の利用状況やCAMの種類、利用目的などCAMの利用実態を明らかにし、不妊治療におけるCAMの役割や今後のCAM利用における問題点を調査する。

【方法】

研究期間は2023年4月25日から7月31日までとし、無記名のグーグルフォームによるアンケート調査を実施した。対象者は女性のための健康生活マガジン（妊活専門）「Jineko」のウェブ版メールマガジン読者15,389名のうち、不妊治療の経験がある方とした。データは単純集計で表示し、自由記述回答をテキストマイニング技術のひとつであるLDA (Latent Dirichlet Allocation) 分析を用いて分類し、共起ネットワークを作成した。また、アンケート項目間の関連については、 $m \times n$ 分割表の検定を行った。有意水準は5%以下とした。

【結果】

有効回答率は2.5% (390/15,389名) で、平均年齢は 39.0 ± 4.7 歳（平均 \pm SD）歳であった。35～44歳が回答者の71%を占め、出産経験がないものは73.6%であった。CAMは60.3%で認知されており、利用経験（現在、過去）があるのは82.6%であった。利用されたCAMは、サプリメントが92.5%と最多であった。「妊娠しやすい身体づくり」(87.6%)や「不妊治療の効果を高める」(87.0%)ことを目的にCAMが用いられていた。CAMの認知と利用状況 ($p < 0.001$)、世帯年収とCAMの利用頻度（ひと月あたり）($p = 0.033$)に関連がみられた。CAMを併用する際の医療従事者からの情報に関しては、テキストマイニングツールを用いたLDA分析および共起ネットワークで、「治療」、「情報」、「補完」、「代替」、「医療」、「自分」、「方法」、「併用」、「根拠」という単語が中心的な役割を担っていた。

【考察】

本研究では、限局的ではあるが不妊治療にCAMは高い割合で併用されており、CAMに関する知識・理解の不足にもかかわらず、広範な年齢層においてCAMが広く普及していると推測された。また、サプリメントが多く利用され、不妊治療の早期の段階から、主に妊娠につながる効果を目的に用いられると考えられた。さらに、CAMの利用には認知が関係し、世帯年収がCAMの利用頻度に影響を与える要因であると考えられた。CAMに関する情報については、CAMの治療内容やその情報、さらにCAMの効果と安全性の情報を必要としていると考えられた。これらCAMの科学的根拠や有効性、効果に基づいた情報を得ることで、CAMを併用する際に、より主体的な判断を下すことが可能になると推測され、情報提供の重要性が示唆された。